

その人らしさをどう見つめる？ 実践報告で考える意思決定支援 ～津久井やまゆり園の取り組み～



社会福祉法人かながわ共同会
津久井やまゆり園
地域サービス課 小針 和臣

津久井やまゆり園について

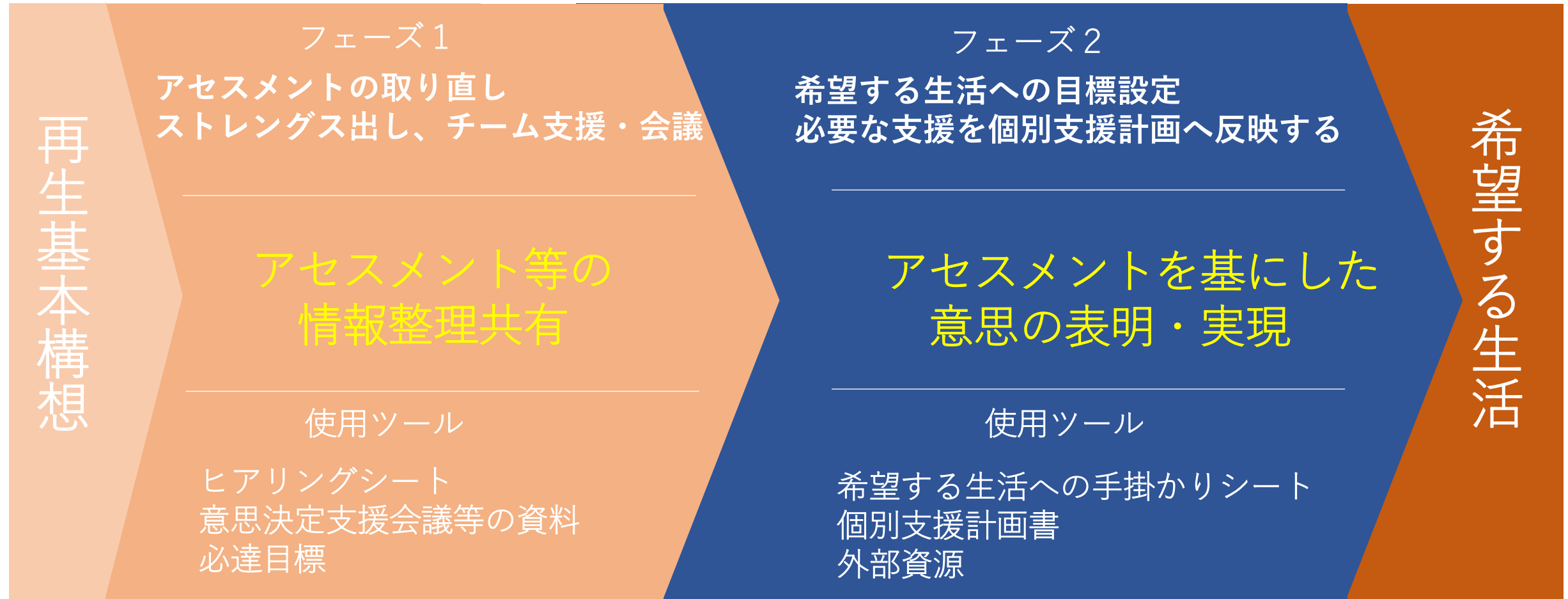


対象者
知的障害者

事業
施設入所／共同生活援助／短期入所
相談支援／生活介護
／相模原市障害者等日中短期入所事業

	入所定員	60名
	短期利用	6名 + 空床型
津久井やまゆり園	生活介護	66名
根小屋地区日中活動支援センター		
「そよかぜ」		20名
寸沢嵐地区日中活動支援センター		
「ファンファン」		20名
共同生活援助(介護サービス包括型)		31名

津久井やまゆり園 意思決定支援フローチャート



実践報告

高齢の母とひきこもりの子の地域移行を見据えた施設入所

Aさん 50歳男性 知的障がい(B2) 自閉症スペクトラム

日中は自宅で過ごし外に出る機会が少ない。

母、81歳 持病の高血圧、股関節症で足に痛みを抱えている。

弟、48歳 同居。Aさんとの関係が良くない。

Aさんは定期的に当園の短期入所を利用(レスパイト目的)

令和7年5月、母の加齢、高血圧の悪化を理由に施設入所の相談が入る。

情報収集(Aさんの思い)

- ・おうちがいい。
- ・母の体調が心配。(体調がよくないことを理解している。)
- ・面談では「施設入所してもよい」と話があったが本心は不明。
- ・短期入所、生活介護など利用経験があるものは知っているがその他のサービスについては、ほとんど知らない。
- ・短期入所は楽しい。
(2週間くらいがちょうどいい。3週間だと長いと本人談。)

(長期の)短期入所を開始して

- ・母の負担軽減
- ・施設入所以外のサービス(グループホーム)について
Aさん、母に説明
- ・短期入所中のAさんの様子を母に伝え、Aさんの今後の暮らしについて、一緒に検討していくことを提案

短期入所中に取り組んだ(意思決定)支援

○ストレングスの発見

- ・洗濯物たたみで「ブティックたたみ」ができた。
- ・買い物は金額を気にしながら買い物していた。
- ・就労は希望していないが、お金を稼ぐことに興味があることがわかった。
- ・女性職員や慣れた職員には相談ができる。

母の気持ちと現実

○母の気持ち

- ・体調不良を理由に新しいことを前向きにとらえることができない。

○現実

- ・将来、母の加齢で身体が動かなくなれば、在宅生活が難しくなるのも時間の問題。



施設に一旦入所して(チームで)意思決定支援を提供し
本人の望む生活の実現を早期に目指す。

Aさんに施設入所の意向確認

「これからやりたいことを叶えるために津久井やまゆり園に入所して職員と一緒に考えていきませんか？」と提案。

「わからない」と返答。⇒数日あけて再度面談を実施した。

数日後、Aさんとの面談

Aさんからの質問

薬はどうするの？ 爪切りは？ タブレットで動画鑑賞できる？
電気シェーバーは掃除して充電できる？

⇒施設入所はしない！

母の体調が関係していることを伝えると
「そっか・・・」と考え込むAさん

渋々ながら、施設入所すると意向を示す

Aさんの意思決定支援で感じたこと

- ・Aさんが思いや要望を伝えられる人ができ、Aさんの理解を得られたことで意思を表出できるようになった。
- ・職員がAさんのストレングスを発見することで前向きに将来の暮らしを考えられるようになった。
- ・Aさんの意思と反したことに対し、状況を整理して伝えることで受け入れられる「力」に支援者が気づき、丁寧に寄り添うことでAさんのエンパワメントを高めることができる。

意思決定支援の大切なポイント

- どんなに重い障害のある人でも、それぞれに尊重されるべき意思がある。
- 自らの意思が反映された生活を送ることができるように。
- 多職種(チーム)で確認を進める。

